

【オーガ】

浅黒い肌、筋肉質の身体、頭のツノが特徴的な**ヒト亜族**である。エルフや人間とは近縁にあたる(彼らの大半は認めようとしませんが)。排他的かつ攻撃的で近隣のお他種族からはひどく嫌われている。近年まで魔物として扱われてきた彼らには様々な俗説が存在する。「オーガは雌が存在せず、さらってきたエルフや人間の女を孕ませて繁殖する」というものが代表的であろう。後半の文面は事実である。(そしてそれこそがオーガが我々ヒト亜族と遺伝子的に**近縁**と言える最大の証拠でもある)だがそれはあくまで副次的な繁殖方法であり実際はオーガにもメスが存在し、それとの繁殖を主とする。今回は謎に満ちた**オーガのメス**、その生態、繁殖について記していこう。

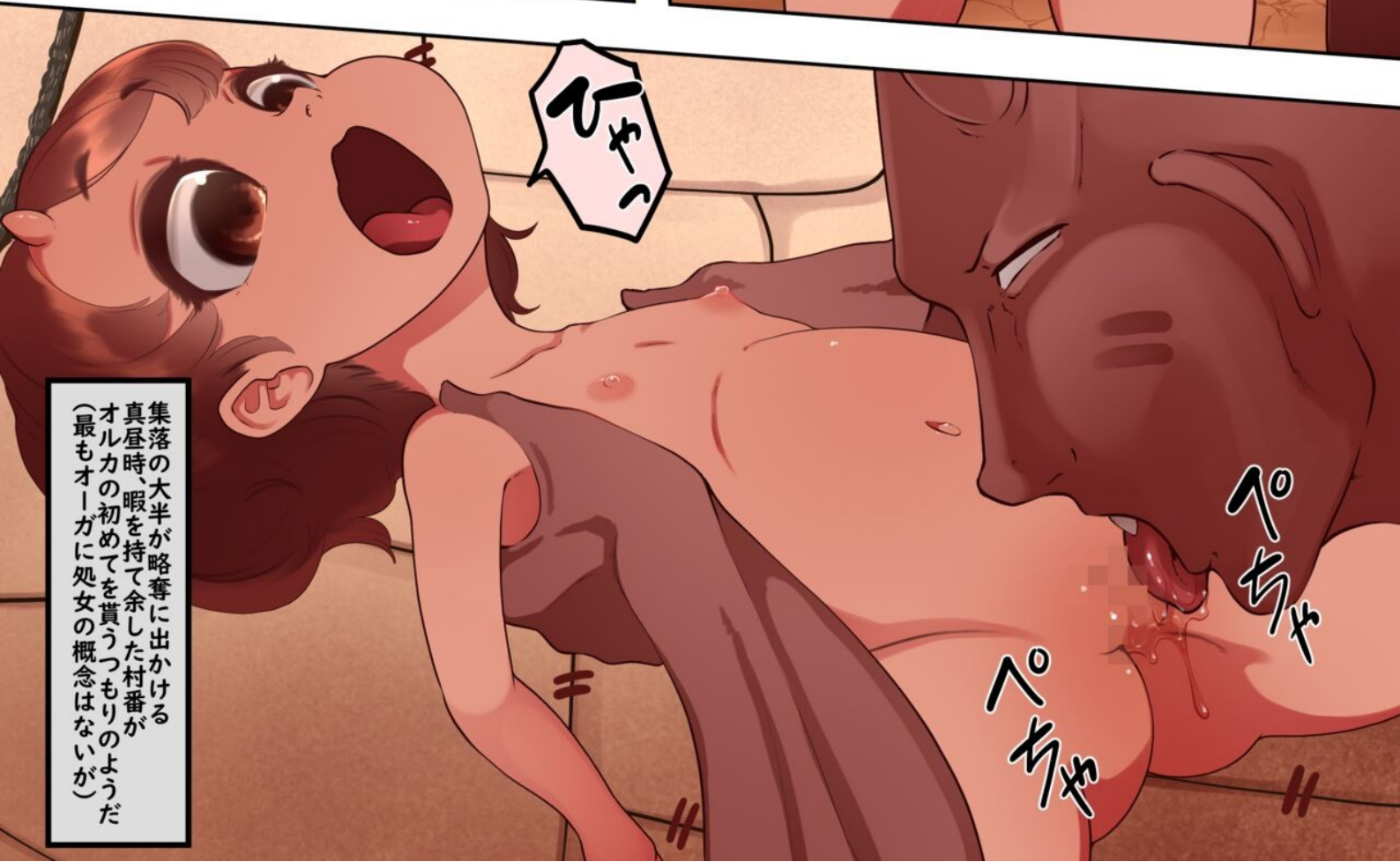
ペドロ教授の研究記録 オーガの生態



あうーん

これがオーガのメス、驚くべきことに成体である。オスとは20倍以上のサイズ差がある。今回はこの成体になりたてのメス……オーガには名前の文化がないため、便宜上「オルカ」と名付ける。オルカの生活に密着していく

【学術メモ】
オーガのメスは生まれてからほとんど、身体的成長をしないし知性も発達しない、その代わり他のヒト亜族と比べると驚異的な早さで妊娠出産が可能になる。オーガの社会的役割は繁殖のみであり、それに合わせた生存戦略がなされたと推察する。



集落の大半が略奪に出かける
真昼時、暇を持って余した村番が
オルカの初めてを貰うつもり
(最もオーガに処女概念はないが)

オルカはこの行為をまだ理解できていないようで、不思議そうに村番を見ています。一方の村番はオルカの反応など気にも留めていないようです。



あーっ？

オーガが性行為をする際、メスに確認や求愛をすることは無い。いわゆるレイプは全てのヒト亜種で見られる行為だが、オーガにはそれが通常の性行為なのだ。これはオーガの文化を知る上で非常に重要な事実だ。



んっ

べろお



うわっ

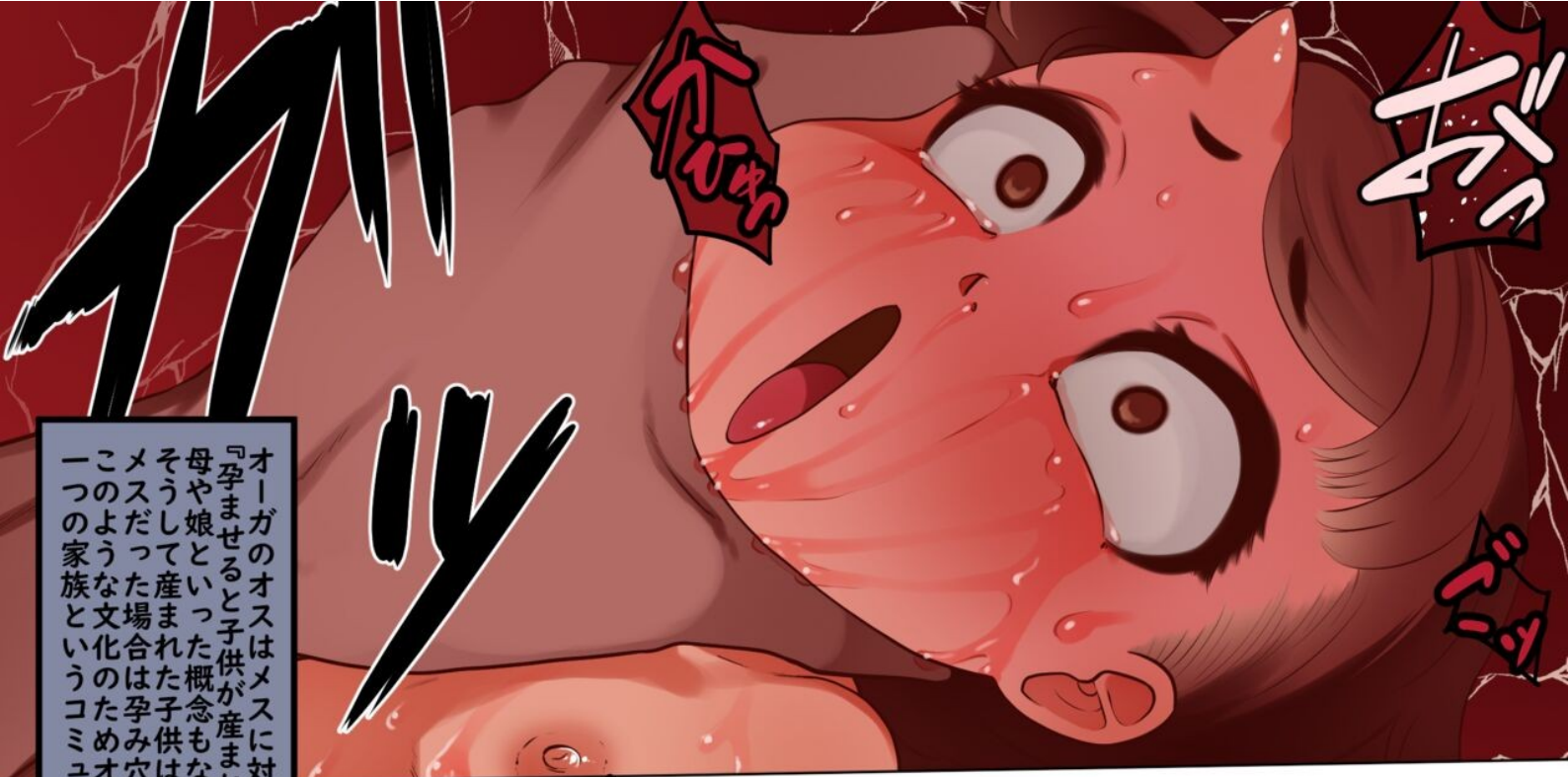
ん

!



オーガの陰茎は非常に大きく、
メスの胴体ほどの長さがある。
これはメスの小さな膣口を
日常的に広げて出産をスムーズに
するためと考えられている。

うわっ...



オーガのオスはメスに対して同胞意識を持たない。「孕ませると子供が産まれてくる穴」程度の認識である。母や娘といった概念もなく集落のオスたちが好き勝手に犯す。そうして産まれた子供はオスだった場合は集落単位で育て兵士となり、メスだった場合は孕み穴として犯され妊娠出産を繰り返す。このような文化のためオーガに家系、血縁と言った概念はなく村全体で一つの家族というコミュニティを形成している。



オルカの悲鳴が村番を興奮させたのか突然首を締め始めた。オーガの性交は非常に暴力性が高く一説によればメスの死因の8割は性交中の事故死であるという。強種族には子孫を残すための間引き行為もなく頑丈な子孫を残すための間引き行為



痛

ハッ
ハッ
ハッ

グ
グ
グ

ギ
ギ
ギ

びん

ケ
ケ
ケ

びん

ズ
ズ
ズ



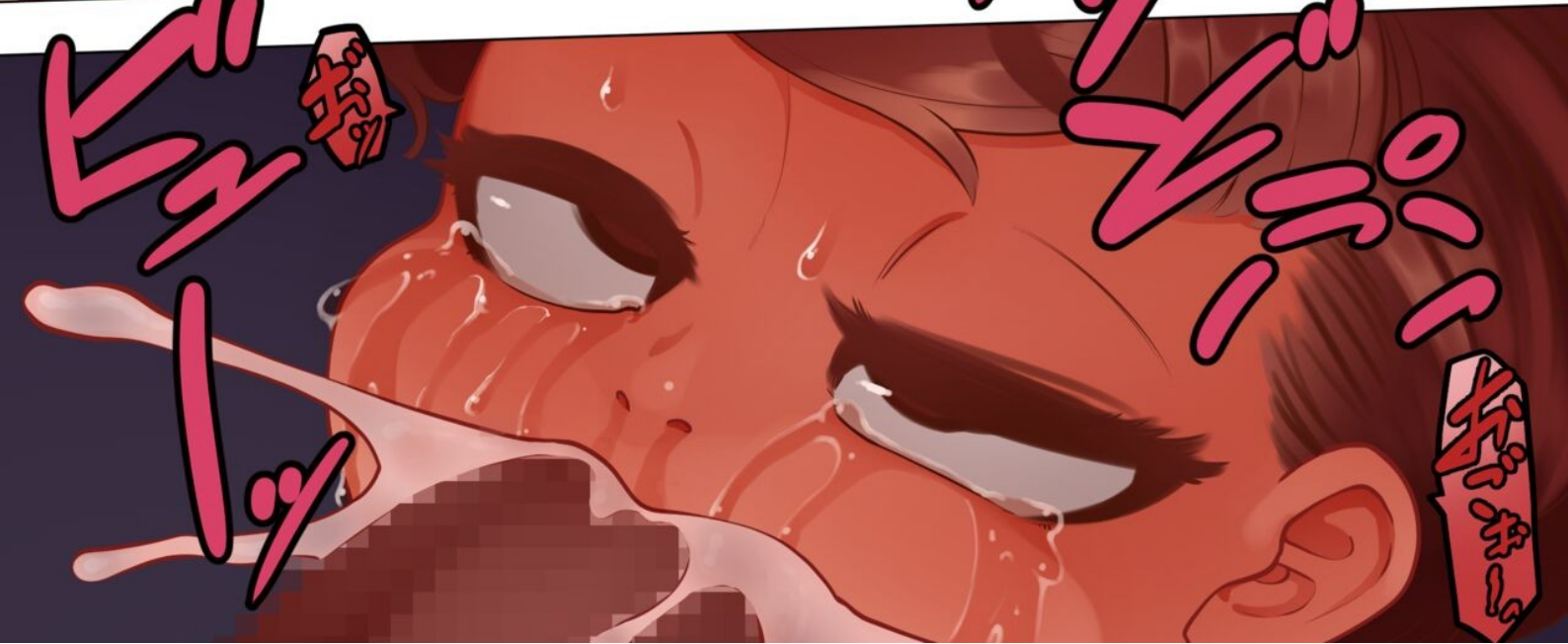
その後も火が落ちるまで
犯され続けたオルカ
頑丈なオーガのメスと言え
既に満身創痍のようだ



夜になってオーガの偵察部隊が
帰ってきたのである
今度は一晩中彼らの相手をするのが
オルカの務めだ



しかしオルカの孕み袋
としての一日は
まだ終わっていない



オーガの集落の平均的な男女比はオスが10人に対してメスが1人出生比率が半々に近い事を考えるとメスがどれほど過酷な生存競争に晒されているかがわかる。

オルカはこれから毎日性欲旺盛なオーガの相手を少なくとも10人にする。



平均して一日22時間は輪姦され続け喉を通すのはオスの精液か小便そして死ぬまで見捨てられ野垂れ死の弱体化はオスの子供を産み続けるのだ



ゴッポッ

おっまお

ゴッポッ

ゴッポッ

ゴッポッ

ゴッポッ

こうして出産適齢期になったメスは孕み穴として酷使される事になる。手足を縛られ専用の小屋に吊るされる。これ以降メスが外に出ることは無く残りの一生輪姦され続け、妊娠、出産のみを死ぬまで繰り返す。

故に他の種族がオーガのメスを視認する機会はほとんどなく、オーガにはオスしかいないという俗説が生まれたようだ。

さて、これにて最初の生態報告を終わらせていたのだが、調査隊は引き続き孕み穴となったオルカの観察を続け、今回は妊娠、出産の過程を調査する。ついでには研究費用の増大を――

ブ
ラ
ン

フ
ポ
ッ

フ
あ
ん

フ
シ
ツ

ほ

ほ

ほ